

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-5)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学器楽 音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、楽器の構え方や演奏姿勢について、手元の拡大写真や息の流れの図示を用いて、奏法に関する解説が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、曲名の下段に学習目標が示されている。また、題材ごとに、キャラクターの吹き出しに演奏方法のアドバイスが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、邦楽演奏家による、音楽と向き合う上で大切にしていることについての話が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、感謝や謙虚な姿勢に関する演奏家の話が掲載されている。また、合奏では仲間と協力し、音を聴き合いながら表現する学習例が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、各楽器の導入として、楽器の歴史や、演奏家による楽器の音色や魅力についての紹介コメントが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の伝統芸能と太鼓演奏との関わりが写真と共に紹介されている。また、復興記念事業のために作曲された太鼓合奏曲が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びの実現について、『何が同じで、何が違う?』で楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴などを考える学習が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、世界の民族楽器の写真と共に、その国の歴史や文化的背景について調べる学習が設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『発展』では、世界各地の楽器について調べ、まとめを記入する欄が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、5種類の和楽器が設定されており、歌唱及び鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『勸進帳』の一部を体験的に演奏してみる活動や、複数のリズムと唱歌を用いて、お囃子を創作、演奏する体験が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーの曲や歌唱曲が、アルトリコーダーやギターによる合奏教材として編曲されて掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の写真を見たり曲を聴いたりすることで、構造や構え方、特徴などについて、比較する学習が設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーでは、新出の音の運指が図示されている。その他の楽器の姿勢や構え方なども、写真や図と共に解説されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> キャラクターの吹き出しにより、学習の方向性や、演奏方法についてのアドバイスが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、『不思議な旋律PART1、2』で、音楽を形づくっている要素の中から、複数取り上げ、対話しながら合奏を完成させる学習が設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な学習について、各楽器では、入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで段階的に配置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、世界の吹奏楽器の写真や解説と共に、歴史について考える学習が設定されている。また、太鼓が昔から行事や祭りで演奏されてきた写真が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-5)を参照。

発行者の略称	教芸	書名	中学生の器楽
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、楽器演奏における『姿勢と構え方』という項目では、複数方向からの写真などを用いて、奏法に関する解説が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習目標が、ページ左端に縦書きで表記されている。また、仲間との対話を通して学習目標に向かう学習事例が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、ピアニストによる、辛いことがあっても音楽を諦めずに続けてきたことについての話が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、和楽器の演奏において、互いの音を聴き合うことに関する中学生の感想や、作法や相手への敬意に関する演奏家の言葉が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、各楽器の導入として、楽器の歴史や、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓や篠笛が地域の祭りなどで演奏されている様子が紹介されている。また、和楽器や地域の伝統芸能に関わる中学生の感想も掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びの実現について、キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫に関する対話が例示されている。また、『<input checked="" type="checkbox"/>』により、演奏時に留意する内容が示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、世界の伝統楽器の写真と共に、その楽器が生まれた歴史的背景について解説されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、アンサンブル表現の工夫について、キャラクターの吹き出しを手掛かりに、意見交換する学習が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、5種類の和楽器が設定されており、各楽器の導入では、代表的な曲が紹介されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、唱歌と手拍子、膝打ちにより合方のリズムや間を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーによる二重奏曲が掲載されている。また、小学校で学習した歌唱曲も、練習曲として掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、合奏における各パートの役割を手掛かりにして、どの楽器の音がふさわしいかを、複数の楽器を比較して考える学習が設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーでは、新出の音の運指図が掲載され、演奏上の留意点も、Q&A形式で示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> キャラクターの吹き出しにより、学習の要点や、表現の工夫についてのアドバイスが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な学習について、前半に合奏が設定されている。各楽器に関連する教材は、一般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。ギターでは、クラシック以外のジャンルについて紹介されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は、アンサンブル、リコーダー、ギター、和楽器、打楽器の順に各楽器が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています』『特別支援教育の観点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得について、リコーダーや和太鼓の演奏における構えや姿勢について、手元を拡大した写真が掲載されたり、息の流れについて図示され、その方向を示されたりするなど、奏法の解説が掲載されている。
教芸	「知識・技能」の習得について、ギターや箏における『姿勢と構え方』という項目では、複数方向から撮影した写真が掲載されており、体の向きや力の加減、手の使い方について解説が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『Let's Play!』では、曲名の下段に、学習目標が示されている。また、題材ごとに先生役や生徒役のキャラクターの吹き出しに演奏方法のイメージについてアドバイスする内容が掲載されている。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書の前半に『アンサンブル・セミナー』が設定され、学習目標が縦書きで表記されている。また、『深めよう！音楽』では、学習目標や表現方法について、仲間との対話を通じた学習事例が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『音楽はメッセージ 心を込めて中学生の皆さんへ』として邦楽演奏家の、音楽と向き合う上で大切にしていることについての話と、演奏時の写真が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭にピアニストの辛いことがあっても音楽を諦めずに続けてきたことについての話と、演奏時の写真が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、『心を込めて』に「感謝と謙虚の心をいつまでも忘れないように」という深海さとみの言葉が掲載されている。また、『合わせて合奏しよう』にリコーダー、箏などの合奏の際に、仲間とお互いの響きを聴き合いながら演奏する学習例が掲載されている。
教芸	[思いやる力]の「人権教育」について、巻末資料の『中学生にインタビュー』では、互いの音を聴き合うことの魅力について掲載されている。また、『コラム』では日本の伝統文化における相手への敬意や作法の大切さが記載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
教出	[たくましく生きる力]について、リコーダー、篠笛、ギター、和太鼓など、各楽器の導入では、楽器の歴史について紹介すると共に、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。
教芸	[たくましく生きる力]について、リコーダー、篠笛、ギター、和太鼓など、各楽器の導入として、楽器の歴史について紹介すると共に、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓の題材では、地域の伝統芸能との関わりが写真と共に掲載されている。また、復興記念事業『神戸21世紀海響祭』のために作曲された太鼓合奏曲『千の海響 望の章』が掲載されている。
教芸	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓や篠笛では、地域の祭りや芸能の中で演奏されている様子が紹介されている。また、巻末資料や裏表紙では、和楽器に取り組む中学生の感想や、地域の祭り囃子を伝承している姿も掲載されている。

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	主体的・対話的で深い学びの実現について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴等について考えるワークシートが掲載されている。また、『発展』では各楽器の成り立ちや伝統などについて仲間と意見交換する場面も設定されている。
教芸	主体的・対話的で深い学びの実現について、『深めよう!音楽』では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫についての対話が例示されている。また、『☑』により、演奏において留意する点が写真などを交えて示されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	カリキュラム・マネジメントについて、『発展』では世界の諸民族の音楽の伝統について掲載されており、それらの歴史や文化について調べる課題が掲載されている。また、口絵②では、和楽器奏者の礼儀に関する考えが記載されている。
教芸	カリキュラム・マネジメントについて、『音楽ってなんだろう?』では、批評家の考えと共に諸外国の伝統楽器の演奏や、日本各地の祭りの写真が掲載されている。『楽器を知ろう』では、各楽器の特徴、生まれた歴史的背景についても解説されている。

- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
教出	言語能力の育成について、『発展』では、世界各地の楽器の文化や伝統について、いつ、どこで、何のために演奏されるかについて調べ、まとめる記入欄が設定されている。また、『話し合おう』では、仲間と意見交換する場面も設定されている。
教芸	言語能力の育成について、『アンサンブルセミナー』の『深めよう!音楽』では、アンサンブルの表現を工夫するために、言語活動例が掲載されており、生徒役キャラクターのアドバイスや投げかけの言葉を手掛かりに、仲間と意見交換する学習が設定されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、篠笛、尺八、箏、三味線、和太鼓の5種類の和楽器から選択できるように設定されており、『さくらさくら』や『荒城の月』、『勸進帳』など、歌唱や鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されている。また、楽器本来の楽譜も掲載されている。
教芸	伝統や文化に関する教育の充実について、箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八の5種類の和楽器から選択できるように設定されている。また、導入では、その楽器の伝統的な代表曲が鑑賞教材として紹介されている。唱歌や楽器本来の楽譜も掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
教出	体験活動の充実について、鑑賞教材の『勸進帳』の『寄せの合方』の部分を体験的に演奏する活動が掲載されている。また、『楽器と唱歌によるパッチワーク』では、複数のリズムパターンと、唱歌を組み合わせた創作活動により、お囃子の特徴を体験する学習が設定されている。
教芸	体験活動の充実について、『寄せの合方』によるリズムアンサンブルでは、唱歌と手拍子、膝打ちにより『勸進帳』を演奏体験する学習が設定されている。また、合方の特徴を体験する際に、掛け声を用いる学習も設定されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
教出	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーによる重奏や歌唱曲などが、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーによる重奏や、ギターとリコーダーとの合奏用に編曲されて掲載されている。
教芸	学校段階間の円滑な接続について、『アンサンブルセミナー』には、小学校で学習したソプラノリコーダー二重奏曲が掲載されている。また、ギターや和楽器の練習曲には、小学校で学習した歌唱曲が編曲されて掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
教出	情報活用能力の育成について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の写真を見たり曲を聴いたりすることで、構造や構え方、特徴などについて、その共通点や相違点を比較する学習が設定されている。
教芸	情報活用能力の育成について、『アンサンブルセミナー』での『深めよう!音楽』で、複数の楽器群より、どの楽器を演奏するかについて考える際に、各パートの役割や旋律、リズムなどの特徴を手掛かりに選択する学習が設定されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーの学習では、新出の音の運指が図示されている。和楽器や、ギターなどでは、楽器の置き方、姿勢、構え方の説明が、複数方向からの写真や、指の位置の図などと共に解説されている。
教芸	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーの学習では、新出の音の運指が図示されている。また、演奏上の留意点が、Q&A形式で示されている。新しく取り組む楽器について、代表曲を紹介することにより、実際の音色を聴く機会が設定されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
教出	教師役キャラクターによる吹き出しでは、学習の方向性や演奏法のアドバイスが掲載されている。また、教材の構成について、吹く楽器から弾く楽器、打楽器の順番で構成されている。
教芸	『アンサンブルセミナー』では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、学習の要点や、表現についてのアドバイスが掲載されている。また、教材の構成について、リコーダーやギターなどの西洋の楽器、和楽器の順番で構成されている。

⑩ 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、[共通事項]をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
教出	主体的・協働的な学習について、合奏教材の『不思議な旋律PART 1、2』には、[共通事項]である音楽を形づくっている要素の中から、旋律、リズム、音色、構成を取り上げ、仲間と意見交換しながら合奏を完成させる学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として、合奏教材が掲載されている。
教芸	主体的・協働的な学習について、「学習内容」一覧に、[共通事項]である音楽を形づくっている要素が示されている。また、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として合奏教材が掲載されている。
⑪ 「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	
教出	系統的・発展的な学習について、全体の構成として、前半は管楽器、後半は弦楽器から打楽器へと、配列されている。また、各楽器の教材は入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで、段階的に配置されている。
教芸	系統的・発展的な学習について、前半にアンサンブル教材が配置され、『深めよう！音楽』により、対話的な学習が配置されている。各楽器に関連する教材は、全般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。
⑫ 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	
教出	音楽文化の理解について、『発展』の『吹く楽器の仲間たち』では、世界の吹奏楽器の写真や、素材が説明されており、文化や伝統について考える学習が設定されている。また、太鼓が、古くから地域の伝統行事や祭りにおいて演奏されてきた写真が掲載されている。
教芸	音楽文化の理解について、巻末に、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。また、ギターでは、クラシック以外にフォーク、ロック、ジャズなどのジャンルの違いが紹介されている。『バンドの世界をのぞいてみよう』では、音楽文化の一つとして、ポピュラー音楽が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑬ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	前半は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器の基本的奏法が掲載され、後半は、リコーダーの合奏、和楽器の合奏等アンサンブル曲集で構成されている。
教芸	前半にアンサンブルが配置され、技能についての確認がされている。中間部分にリコーダー、ギター、和楽器、打楽器の順に基礎的奏法が配置され、後半は、合奏教材にポピュラー曲の楽譜が掲載されている。
⑭ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	判型はA4変型判が採用されている。
教芸	判型はA4変型判が採用されている。
⑮ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
教芸	『全ての生徒の色覚特性に適応することを目指してデザインしています』『特別支援教育の観点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	なし
教芸	なし

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名						
教出	有					
教芸	有					

③ 一冊ごとの重量(g)						
発行者名	冊数	重量(g)				
教出	1	220				
教芸	1	220				